

外国人「国内外」から 眺めた徳島大学

大学院ヘルスハイサイエンス研究所
予防環境栄養学分野
太田 房雄 おおた ふゆお



パソコンのマウスを操作するだけで瞬時に世界中の情報が取れる現代社会にあり、平成6年度から法人化された徳島大学も国際化を避けては生き残れないでしょう。
この状況下に「中期目標」が作成され、
教職員総出で国際教育研究システムの構築を目指し、
平成4年4月から留学生センターが、
また同年10月から「大学院国際環境予防医学英語特別コース」が設置され、「国際化ポリシー」もできました。
徳島大学には現在240余名の外国人留学生がいます。

国際化、 内から外から その後



特集

徳島大学における 国際化ポリシー



学長補佐(国際関係担当)・留学生センター長
永田 俊彦 ながた としひこ

徳島大学では、平成17年9月1日現在で世界28カ国238名の留学生が学んでいます。その内訳は男性144名・女性94名、身分別では学部学生46名・大学院生157名・研究生その他35名、地域別ではアジア203名・中近

東10名・アフリカ9名・中南米8名・北米4名・ヨーロッパ4名となっております。徳島大学の留学生数は年々増え続け、平成10年度と比較すると、この7年間で約2倍に増加しました。

国際化を留学生数という指標で評価するとき、徳島大学は確かに国際化が進展しております。しかしながら、倍増した留学生に対して十分な受け入れ体制が整備されているかについては問題点も多く、また、国際化意識に関して教員の間に温度差があるのも実感しております。現在確かに各部署で活発な国際交流が行われ、それぞれの集団の中では多くの実績が蓄積されて

①世界に通用する人材の育成と教育研究の向上に大学全体として組織的に取り組むこと、②地域に根ざした国際交流活動を展開すること、③学生および教職員の国際化意識の向上を推進することの3点を骨子として、世界に開かれた徳島大学が実現されることを目標としています。具体的には、日本人学生や留学生に対する国際化カリキュラムの推進、海外協定校の中から拠点校を絞って行う単位互換制度、ダブルディグリー制度(一部が工学部大学院で開始)、留学生センターを発展的に改組して大学国際戦略本部を設置する案などが提示されています。留学生センターおよび国際連携推進室では、現在このポリシーに準じて種々の活動を実践しております。とくに地域連携という視点では地

ネシア、カナダから98名から回答を得ました。また、同様に学内と海外から経験談や希望などの文章を写真入りでお願いしました。(次頁) 質問の回答結果を要約しました(下記別表)。特徴として、学内者の5%は徳島大学のホームページを知らず、14%は学部数が1つ、または2つと答えました。また、7%が留学生センターを、13%が国際交流会館を、17%が阿波踊りを知りません。さらに、共同研究希望者は86%、英文、和文の広報誌希望が40%前後です。

海外の回答では、徳島大学のホームページ訪問経験者は10%、日本・徳島経験者は50%以下、在日本経験者は9%です。留学生センターと英語コース知名度は40%未満であり、徳島大学独自の奨学金制度は2%しか知りません。阿波踊りの知名度は国内と変わらないようです。40%が本学の教員や学生との交信を、70%が共同研究を、60%前後が何らかの広報誌購読を希望しています。

アンケート結果・海外

男女比	男:53, 女:45
回答者年代	20未満(11/98) 20~30(68/98) 31~40(11/98)
回答者身分	助教・講師(43/98) 学生(35/98)
徳島大学知名度	知る(42/98)
徳島所在知名度	知る(31/98)
徳島大学Web訪歴度	ない(10/98)
学部数知名度	5つ以上(56/98) 5つ(21/98) 3つ(19/98)
日本経験	ある(50/98)
徳島県経験	ある(35/98)
徳島大学友人	ある(32/98)
在日本経験	ある(9/98)
在徳島大学	ある(2/98)
留学生センター知名度	知る(37/98)
英語コース知名度	知る(34/98)
徳島大学奨学金制度	知る(2/98)
外人(留学生)数知名度	50人(29/98) 200以上(23/98) 以下200, 100人が(17/98)
国際交流会館知名度	知る(12/98)
交信希望	希望する(60/98) 教授(45/98) 助教・講師(38/98) 学生(2/98)
交信相手	希望する(34/64) 希望する(66/98)
学生希望	希望する(34/64)
共同研究希望	希望する(66/98)
阿波踊り知名度	知っている(13/98)
広報購読希望	希望する(52/98)
英文広報購読希望	希望する(64/98)

海外の回答では、徳島大学のホームページ訪問経験者は10%、日本・徳島経験者は50%以下、在日本経験者は9%です。留学生センターと英語コース知名度は40%未満であり、徳島大学独自の奨学金制度は2%しか知りません。阿波踊りの知名度は国内と変わらないようです。40%が本学の教員や学生との交信を、70%が共同研究を、60%前後が何らかの広報誌購読を希望しています。

本調査結果が将来の国際化に少しでも役立つことを切に希望します。

3年前徳島大学との出会いが始まり、Abebono Sasu君が日本という国の大学院奨学生になりました。我が国の大学では前代未聞で、日本への興味、中でも徳島大学への関心が挙がりました。この学徒を通じ、多くの若い研究者が極東にも世界的な

学術探求により学位を得られる場として日本を認識しました。これを契機に留学生として相当数の学徒が応募しました。かくAbebono Sasu君が徳島大学に国費留学生となりました。エチオピアから東国への学術探検の始まりと言えます。

「徳島大学国際化ポリシー」では、

道な活動を展開しており、学内では、大学解放実践センターでの「国際交流ボランティア入門」の開講、学生サポーター!地域サポーター!活動の推進、イングリッシュチャットルームの開設、学外では、市民公開シンポジウム「母国で振り返る私の徳島大学留学生時代」の開催、徳島県国際交流協会主催の「外国人による日本語弁論大会」への協力、徳島地域留学生交流推進協議会での支援活動、企業や自治体が協力する施設見学ツアー、地域団体との交流懇親会などが行われています。これらを通じて、徳島ならではの地域に根ざした活動が推進され国際化の裾野が広がることを願っております。

今後、「徳島大学国際化ポリシー」の下で学生、教職員、地域が一体となって国際化活動が推進されるように努力していきたいと存じます。すべての留学生が口をそろえて「Tokushima is a very nice place to live and study.」と発するようになるとき、徳島大学の国際化が成熟した形で評価される時期であると思えます。

今やマウスのクリックで溢れる情報に接することができ、情報で重要な点は、「自分に必要なものは何か」を示す興奮と興味を抱かすことです。我が学徒二人が貴大学に覚醒されました。

読者はゴンドール大学に興味があるでしょうか。我が大学は、昔エチオピアの首都であったゴンドールの郊外にある丘に立っています。宗教とは無関係な文学、神学、哲学、音楽や芸術を基盤として発展したかつてのゴンドール医科大学に根づくものです。健康科学、医学、社会科学、獣医学、情報科学、法律を中心に6つの学部を擁し、1998年にWHOより世界笹川賞、2004年に健康科学教育・研究とその活動にて世界公衆衛生賞に輝きました。特に公衆衛生及び熱帯医学分野で研究相手としての魅力があります。徳島大学の科学者は皆さん旅行者としても歓迎いたします。(こんにちは)

寄稿

What is there for me?

President, University of Gondar
Yared Wondmikun



ゴンドールからの留学生(太田教授室にて研究打ち合わせ)

アンケート結果・国内

男女比	男:56, 女:32
回答者年代	20~30(45/88) 31~40(40/88)
回答者身分	学生(65/88)
徳島大学知名度	知る(88/88)
徳島所在知名度	知る(88/88)
徳島大学Web訪歴度	ない(8/88)
学部数知名度	5つ以上(44/88) 5つ(31/88) 1~2つ(12/88)
日本経験	ある(86/88)
徳島県経験	ある(81/88)
徳島大学友人	ある(32/88)
在日本経験	ある(65/88)
在徳島大学	ある(58/88)
留学生センター知名度	知る(82/88)
英語コース知名度	知る(65/88)
徳島大学奨学金制度	知る(63/88)
外人(留学生)数知名度	200人以上(53/88) 200(19/88)
国際交流会館知名度	知る(78/88)
交信希望	希望する(16/88) 教授(58/88) 助教・講師(11/88) 学生(1/88)
交信相手	希望する(77/64) 希望する(76/88)
学生希望	希望する(77/64)
共同研究希望	希望する(76/88)
阿波踊り知名度	知っている(73/88)
広報購読希望	希望する(38/88)
英文広報購読希望	希望する(35/88)



Unforgettable Tokushima!

Science and technology, Hatay Province, Vietnam

Nguyen Thanh

四国の東にある徳島は眉山や多数の橋を有し、眉山から眺める公園の緑や花々が目を潤してくれます。毎年8月に数え切れない男女、子供の踊り子連や見物人で賑わう真夏の夜の祭り、「阿波踊り」があります。日本人は行楽に出かける習慣及び勉学などを助けてくれました。受け入れ家族制度もいいですね。徳島大学の教授は熱心で、教育や研究の雰囲気が高く、日本人学生は賢く、教授によく従い、土・日曜日にも勉学をします。研究室にある機器の多くは、外国人学生には目新しいものです。実験結果につき毎週セミナーで説明を求められるので理解が深まります。一番重要なのは言語です。日本語は難しく我慢と智恵、時間を要します。すばらしい教授、同僚、目新しい機器に接し、人生にまた新たな感覚、仲間と魂を得ました。

時にごみ袋を準備するので、公園、駅や通りがきれいです。夜中でも恐怖を感じず自転車で走り回れます。公共のバスやタクシーは便利で、大都会ほど渋滞がありません。生活費も東京や大阪より安く、すだち、わかめやアワビが美味しかったです。大学内では、日本人チューターが生活一般、必要書類、



医学部での研修時、大塚製薬工場にて他の研究生と(著者左端)

The gap

Foreign Student at The University of Tokushima

Anonymous

努力家、技術革新で偉大な国日本に少年時代から夢をもっていました。この極東国への憧れが2003年現実となりました。海外どこでも最初の数ヶ月間、カルチャーショック、天候、異文化、中でも研究に対してはストレスに満ち、それに対処する苦労は言い表せません。辛抱と観察、忍耐です。教授と一部学生からの親切や励ましなくては、これら乗り越えられなかったでしょう。まずは彼らに御礼を！

1 日本語 研究面や日々の生活で大問題です。徳大での日本語教育は全外国人を対象にしていません。言語自体の理解もさることながら、留学生間で交流があればさらに理解を促し、日々

2 英語版の冊子 全員ではないが、外国人は英語を読み、書き、話します。日本語版に相当する英語版学内規則(授業科目、履修登録等)があれば研究生活は遙かに円滑となります。

3 研究生活 学生が研究科でなく教授に属するため、学生の研究が講座の研究に限られ、学生の多様性に応じられません。一方で、単一の論文掲載による卒業認定は、母国に帰った時間問題となります。西洋の多くの大学では卒業論文を評価します。

4 学位証明 学生の研究科でなく、実際にやった学術分野で学位名称とすべきです。例えば、医学博士とか歯学博士でなく解剖学、薬理学など。学生の将来の研究分野との関係が深いので。

5 討論の場 大学には留学生センターがあります。全留學生の研究や日常生活に関し相談する場。これがあれば、学生生活がより楽しくなるでしょう。最後に、関係各位の今後の努力で解決されますよう。ありがとう！



徳島大学での留学体験談

(本人原稿和文)

M. Imam Firdaus

私はインドネシア出身で、六年間、機械工学科で勉強し村上教授の指導の下、修士号を取得し帰国しました。私は東京での一年間の日本語の勉強後、徳島での留学生生活を開始しました。一年次は文系科目受講と日本語能力不足で苦労しました。2年次になると工学系科目も増え、日本人の友達もでき、日本語も上達し、学生生活は一生忘れません。

が楽しくなりました。また在学中、国際交流協会会員との剣山の秋の登山や、各国の留学生との交流が貴重な思い出となっています。妻の里帰りの際に常三島キャンパスを訪れますが、改築され、留学時代の面影がなくなり、少し寂しく思います。しかし、青春時代に刻まれた徳島大学での留学生活は一生忘れません。



I owe much to the University of Tokushima

Senior postdoctoral fellow, McGill University

Youssof Cisse



カナダの研究室にて(著者左後方)

私は五年間、家族と共に徳島で過ごしました。徳島の人々には国際交流協会を通じて非常に暖かく接して頂き感謝しています。この場を借りてお礼申し上げます。徳島大学は国際大卒だと思えます。私は在学し国際的に活躍する基盤と自信を得ました。これは徳島大学の研究、教育の質の高さによるものと感謝しています。徳島大学はさらに国際化を推し進める時期にきています。それには国際交流協会との連携が必要です。交流協会は姉妹都市との交流を企画し、大学は国際会議の開催や、卒業留学生とのネットワーク作りをし、教員は国際共同研究を進める。それによる更なる国際化に期待しています。



Japan an amazing change in my life

大学院歯学研究科4年

Santos de Araujo Rui Mauricio

日本の高度先端技術や新幹線などについて子供の頃から話を聞いていたので、日本の生活について大変興味を持っていました。しかし、方でそれは非常に遠い世界であるようにも思っていました。ショートステイをする機会を得て日本にやってきた私は、人々のあたたかい歓迎を受け、また日本へのイメージであった安全性や現代性を感じる事ができたことから、日本に住んでそのライフスタイルを経験しようと思いました。ブラジリアでの安定した生活から離れてからは、日本の生活のすべてが新しいものでした。仕事も分子生物学

の分野に変えて研究を始めましたし、多くの方々に会って、カラオケあるいは温泉に行くような全く初めての経験もできました。徳島の人々は本当に協力的で友好的です。外国人は異なる国で多くの困難に直面しますが、私の場合、それほどの苦労はありませんでした。徳島での生活は私の生涯で最も素晴らしい経験であり、私の心を開き、いつかの独立心や新しいチャレンジ精神を学ぶことができましたと感じています。私は日本で与えられたすべてのことに本当に感謝しています。そして、日本を離れたときはいつでも、日本に帰れることを大変うれしく感じるのでした。



歯学部研究室にて



The days in the University of Tokushima

北京大学医学部教授

Ping Xu

私は1993年に徳島大学薬学部の楠見武徳教授の研究室に中国から留学しました。当時、研究室は海洋生物が生産する生理活性物質の研究を行っていました。私もその研究を通じて沢山の知識と技術を身につけることが出来



薬学部在学中の著者

日には、研究室全員で山に登ったりラリーボールやソフトボールをしたりしました。また、海洋生物の採集やお食事会、合唱、お誕生会、それにコンサートを聴きに行ったりして、研究室のメンバーというよりは大きな暖かい家族の一員のような気がしていました。本当に素晴らしい人達と親交を深めることが出来、今でも幸せな気持ちでいっぱいです。

ました。特に2次元NMRスペクトルの技術は、留学後さらに渡米し中国に帰国した現在まで、私の研究を支える道具になっています。楠見研究室に11人の人達が居ましたが、殆どが大学院生と学部学生で、若い活気と共にとても仲が良いことが印象的でした。実験が二息ついた

特集 国際化、内から外からその後